

「文恵 今日からだっけ
本当にごめんな
苦労掛けて」

「いいのよ♥
今までも2人で
乗り越えてきたじゃない」

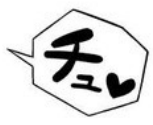
「だからそんな顔しないで
あなた♥」

小さな町で
小さなカフェを経営する
それが彼の
…二人の夢だった

「それじゃ気を付けて」

「うん♥
いってくるね♥」

3年前
夫は独立し
遂に二人のカフェを
ここにオープンした
…けど



昨今の外食産業の
不況に例外なく
私たちのカフェも
その煽りを受けた

今まで私たちが
少ない利益の中でも
なんとかやって
これたのは
大家さんのお陰だった

夫の恩人で
店舗の家賃を
ほとんど無償に
してくれていた

でもその大家さんが
亡くなり
ビルを大家さんの孫が
相続すると
家賃を通常の値段に
戻すと告げられた…

到底支払える
金額でもなく…

かといって
ようやく手に入れた
二人のカフェを
手放すことも出来ず

私たちは
新しい大家の出した
条件…を呑むことにした

「待ってたよ
文恵さん♥」

「ちょっと
…止めなさいっ!!!」





「うん♡すっごい柔らかさ♡
この爆乳を二度揉みしだき
たかったんだよね♡」

「ちよっと!!
セクハラよ!!」

最悪だ…
あの先代の大家さんの
身内だから
変なことは無いと
夫が言っていたけど…

まさかこんな
ヤツだったなんて…

「改装費だつて
相当掛かってるでしょ?
固定費がかさむと
ローンの返済も
厳しいかもねw
このままじゃ…」

「なっ…卑怯よ…」

「フフ…これも立派な
お世話でしょ♡
それにいいの?
断れば家賃あげちゃうよ?」

「毎日家に来て
身の回りの世話をする…
それが家賃を
そのままにしてくれる
条件だったでしょ」



「旦那さんのカフェ
…つぶれちゃう
かもよ?w」

ここまで頑張ってきて
ようやくオープン
できた二人の店…

…ここで私が断れば
…全部台無し

「わっわかった…
でもこのこと…
夫には言わないで…」

「おっ♡交渉成立だね♡
じゃあその胸…
自分で出してみてよ♡」

悔しい…
こんな奴の
言いなりになるなんて
でも…今の私には
こうすることしか
…出来ない

「うひょおお♡文恵ママの
特大ミルクタンク♡
今日から僕のモノだ♡」

「文恵ママって…」

ブルン

「ああいいからっ
じゃあまずはそのおっぱいで
お世話して貰おうかな♡」

「...これであってるの?」

「おおお♡すっごい乳圧♡
つてもしかして

パイズリしたことないの?W」

「ないわよ...こんな卑猥なこと...」

「え、旦那さん勿体なつW
このおっぱいで

パイズリ仕込んでないとかW」

「だっ...旦那はアナタと違って
真面目だし私を

大切にしてくれてるからよっ!!!」

「フフ...眺みながらの
パイズリもいいね♡
もっとおっぱい全部使って
そうそう♡上手い上手い♡」

人のカラダを
欲望を満たす
道具みたいに...
本当に

「あああ...もう出るよ
文恵ママ♡♡
そのまま続けて...」

サイアクな男

「ふう...最高っ♡
じゃあ次は

「中」も味見させてね♡」

「えっ...一回出したら
終わりなんじゃ...」

「旦那さんと一緒に
しないでよW
ほらベッド行って」

「待って!!お願い!!
避妊はして...」

「もう...しょうがないなW
まあでも...」



ゴッ

グッ

ギョ♡

アッ

アッ

アッ

ギッ

「ゴムハメは
オツケーってことね♡」

ちがっ
あ
あ
あ

ズ
ホ
ホ
ホ

ちよっ…なにこれ…
夫とサイズが

全然違う…

あ
あ
あ

あ
あ
あ

「今日から毎日昼間は
僕の部屋に、お世話
しにくるんだよ?」

「作法も手取り足取り
…教えてあげるからね♡」

「文恵ママ♡」

それからのことは
あまり覚えていない…

あの日から毎日ママの
お世話をするのが
私の仕事になった…

「文恵?」
「大丈夫? 顔色悪いよ?」

「えっ?」

「うん…大丈夫
…少し考え事
してただけだから」

「上の大家さんのトコ
上手くやれてる?」

「うっうん
…問題ないよ?」

「ホントに?
通い始めてから
元気ないような
気がするけど…」

あの日から毎日…
夫には言えないことを
上の階でしている…



「マ」つちに
挿れてあげる♡」

グッホッ

まほぎまほぎ
まほぎまほぎ

「前からキレイにしておいて
良かったでしょ？」

「初ケツハメで
お潮吹いちゃういけない
人妻メイドには」

「たっぷり
指導して
あげるからね♡」

自分がどんなもなことを
してしまっているのは分かる

…だけどコイツとの
セックスが始まっちゃうと…



圧倒的すぎて♡
何も考えられなく
なっちゃり♡♡♡

「ほら♡文恵ママ♡
鳴いてないで
どこが気持ちいいか
言ってみらん?♡」

「ケツ穴ほじりとあ…♡
マ○のバイブ同時責め…♡
気持ちいいですううう♡♡♡」

「いい子いい子♡
従順になってきたね♡」

「それじゃあいい子の
文恵ママのケツ穴に…」

「ザーメンプレゼント♡
いっぱい受け取るんだよ?♡」

「ふう〜まだまだ出し足りないよ♡
今日は泊まって行きなよ♡
朝まで可愛がってあげるからさ♡」

「流石に…泊りは…
夫にバシチャウ…」

「いう事聞けないと
どうなるかわかっている?
ここで朝までセックスするのも
旦那さんの為だよ?」

「わ…分かったあ♡
いうこと聞くからあ♡
夫には絶対秘密にして…♡」

「わかってるって…♡
旦那さんとじゃ出来ないこと
いっぱいして帰ろうね♡文恵ママ♡」

「ゴメンなさいあなた…
今は従順なフリを
してるだけだから…♡」

「びゅん♡」

「朝には…
元に戻る…から♡♡♡」

「びゅん♡
びゅん♡
びゅん♡

「うぎゅん♡」